

感染症対策など 県保健行政学ぶ

ザンビアの研修生

岡山県の保健行政を学ぶために来岡したアフリカ南部・ザンビアの首都ルサカ市保健局からの研修生四人が九日、県庁を訪れ、感染症対策などについて理解を深めた。写真。

日本の保健所にあたるヘルスセンター長三人と環境衛生技監一人が宮崎雅則保健福祉部長を訪問。アグネス・シタンジエ・ジョージ地区センター長(四左)は「公衆衛生に関する岡山県の取り組みを習得し、ザンビアで活用したい」と話した。

続いて保健福祉課、健康対策課の職員四人が感染症対策を紹介。ザンビアは五人に一人がエイズウイルス(HIV)に感染していることから、四人の関心は高く、医療機



関と提携した患者の確認、県民に注意を促す情報提供のノウハウなどの説明に熱心に聞き入っていた。

研修は、国際医療ボランティアAMDAが国際協力機構(JICA)中国国際センターの委託を受けて実施。四人は七日に来岡し、二十六日まで滞在予定。岡山市下水道局や同市保健所などを回り、汚水処理システムや三歳児検診などを視察する。